

I 調査の概要

1 目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の根拠

学校保健統計調査規則（昭和 27 年文部省令第 5 号）に基づいて実施される基幹統計調査。

3 調査の範囲・対象

(1) 調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）。

(2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する満 5 歳から 17 歳（令和 6 年 4 月 1 日現在）までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部。

※幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。

※小学校には義務教育学校の第 1～6 学年、中学校には義務教育学校の第 7～9 学年を含む。

※幼稚園は 5 歳、小学校は 6 歳～11 歳、中学校は 12 歳～14 歳、高等学校は 15 歳～17 歳の区分。

4 調査事項

(1) 発育状態調査

児童等の発育状態（身長及び体重）

(2) 健康状態調査

児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患の有無、皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿及びその他の疾病・異常の有無）

(3) 相談員配置状況（退職教員、保育士、民生児童委員など地域の人材等）

児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校・問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に当たる者。

(4) スクールカウンセラー配置状況（臨床心理士、精神科医、心理学系の大学の常勤教員等）

臨床心理に関し高度に専門的な知識・経験を有する者であり、心の専門家として、専門性を有しつつ、児童生徒へのカウンセリング、教職員及び保護者に対する助言・援助を行う者。

5 調査の期日

令和 6 年 4 月 1 日から同年 6 月 30 日までの間に実施された学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）による健康診断の結果に基づき調査。

6 調査実施校数及び調査対象者数

調査実施校数、調査対象者数は次のとおりである。

調査実施校の内訳

区 分	学校数 (園、校)	幼児・児童 生徒数(人)	調査実施 校数 (園、校)	発育状態調査		健康状態調査	
				対象者数(人)	抽出率(%)	対象者数(人)	抽出率(%)
幼稚園 (5歳児)	67	1,876	27	833	44.4	971	51.8
小学校	118	27,283	56	5,015	18.4	17,915	65.7
中学校	63	14,396	36	4,087	28.4	11,350	78.8
高等学校	32	13,552	23	2,037	15.0	11,794	87.0
計	280	57,107	142	11,972	21.0	42,030	73.6

注 1：抽出率＝（調査対象者数）／（令和 6 年度学校基本調査各学区の園児数、児童数及び生徒数（確報値））

注 2：幼稚園の学校数及び園児数は、幼保連携型認定こども園の数値を含む。

注 3：小学校の学校数及び児童数は、義務教育学校（第 1 学年～第 6 学年）の数値を含む

注 4：中学校の学校数及び児童数は、義務教育学校（第 7 学年～第 9 学年）の数値を含む

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長

身長推移は、男女ともに昭和50年代から横ばい傾向となっているが、男子は10歳で過去最高であった。

ア 前年度との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、17歳の171.3cm(前年度より1.1cm増)で、次いで15歳の169.3cm(同0.9cm増)であった。また、10歳(139.8cm)で過去最高であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、9歳の133.6cm(同1.4cm減)で、次いで7歳の121.3cm(同0.9cm減)であった。

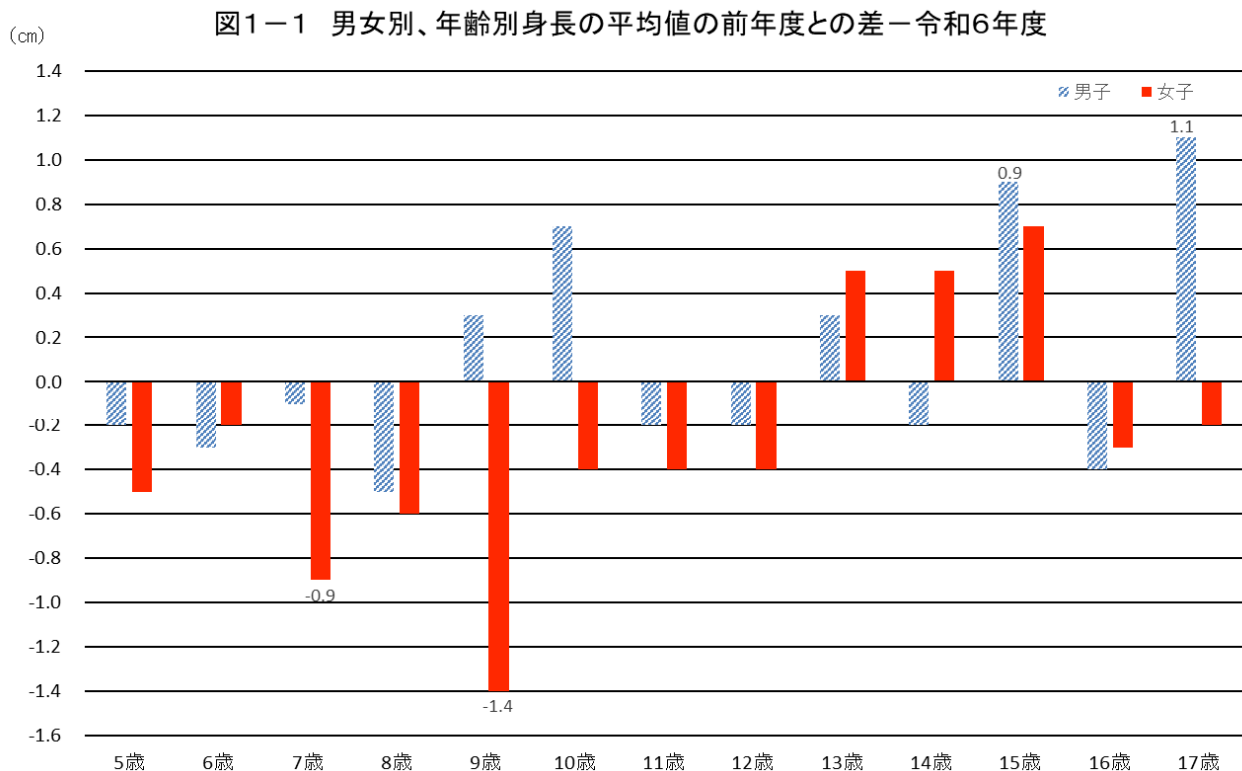
イ 全国との比較

- ・男子をみると、15歳の169.3cmで0.7cm上回り、次いで17歳の171.3cmで0.5cm上回った。
- ・女子をみると、13歳の155.5cm、14歳の156.9cm及び15歳の157.6cmで0.5cm上回り、7歳の121.3cm、9歳の133.6cm及び16歳の157.2cmで0.5cm下回った。

ウ 30年前(親の世代:平成6年度)との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、12歳の153.8cm(30年前より2.3cm増)で、次いで13歳の161.1cm(同1.4cm増)であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、11歳の147.9cm(同1.1cm増)で、次いで16歳の157.2cm(同0.7cm減)であった。

(図1-1~1-5、表1-1 統計表 表1、表2-1~2-2)



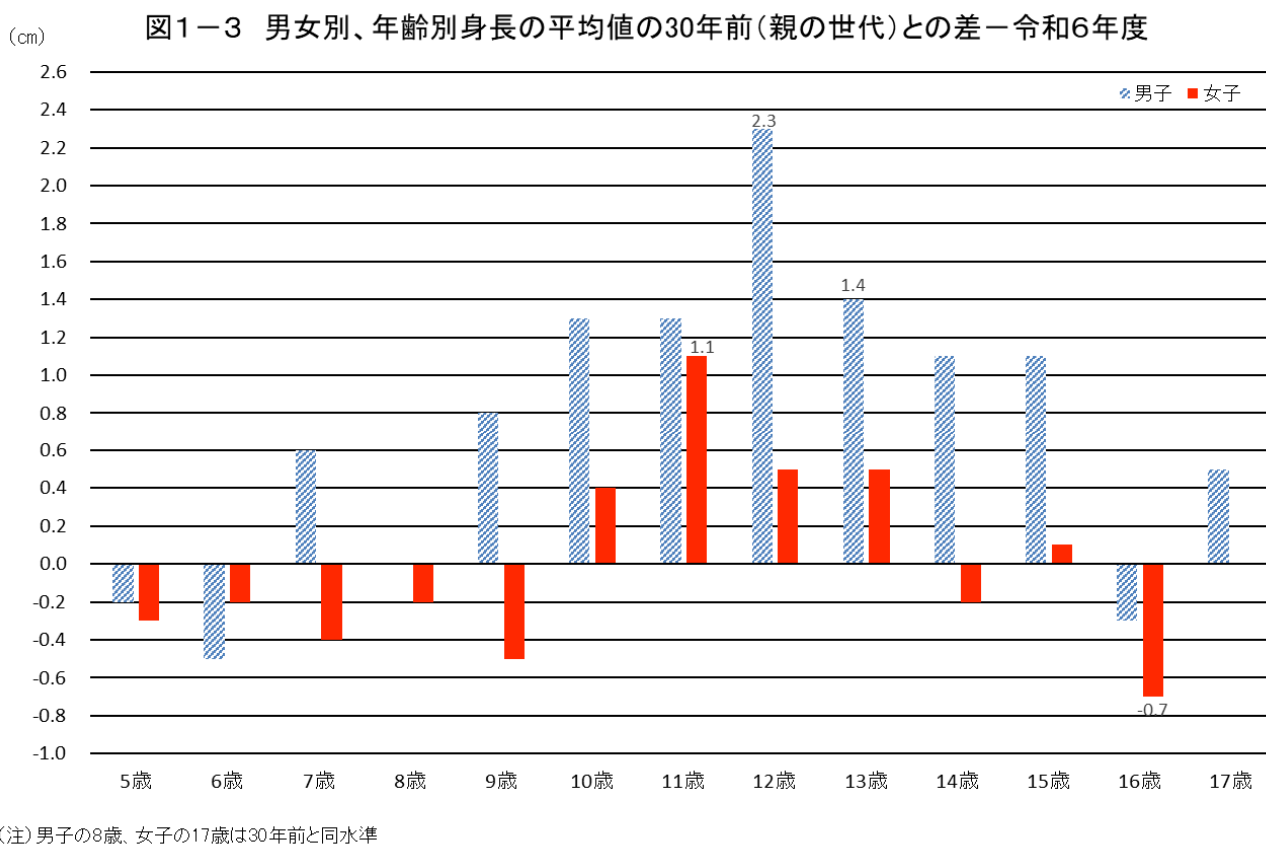
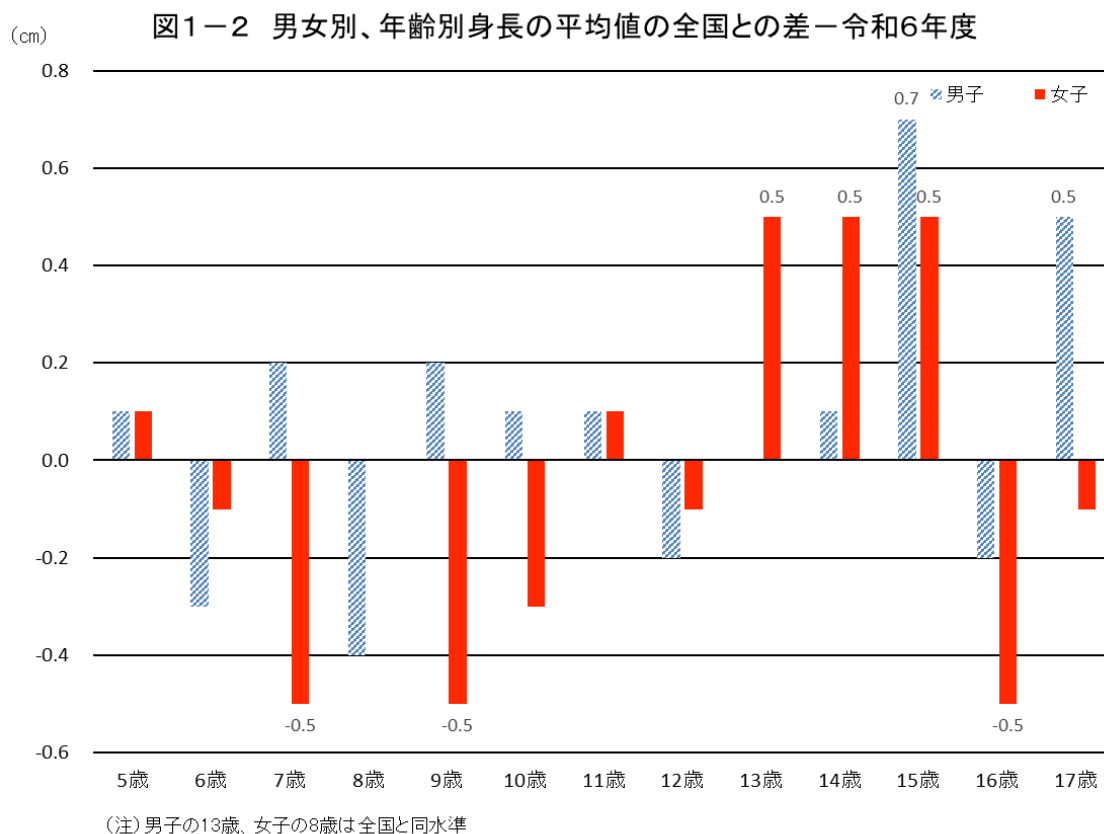


図1-4 男子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

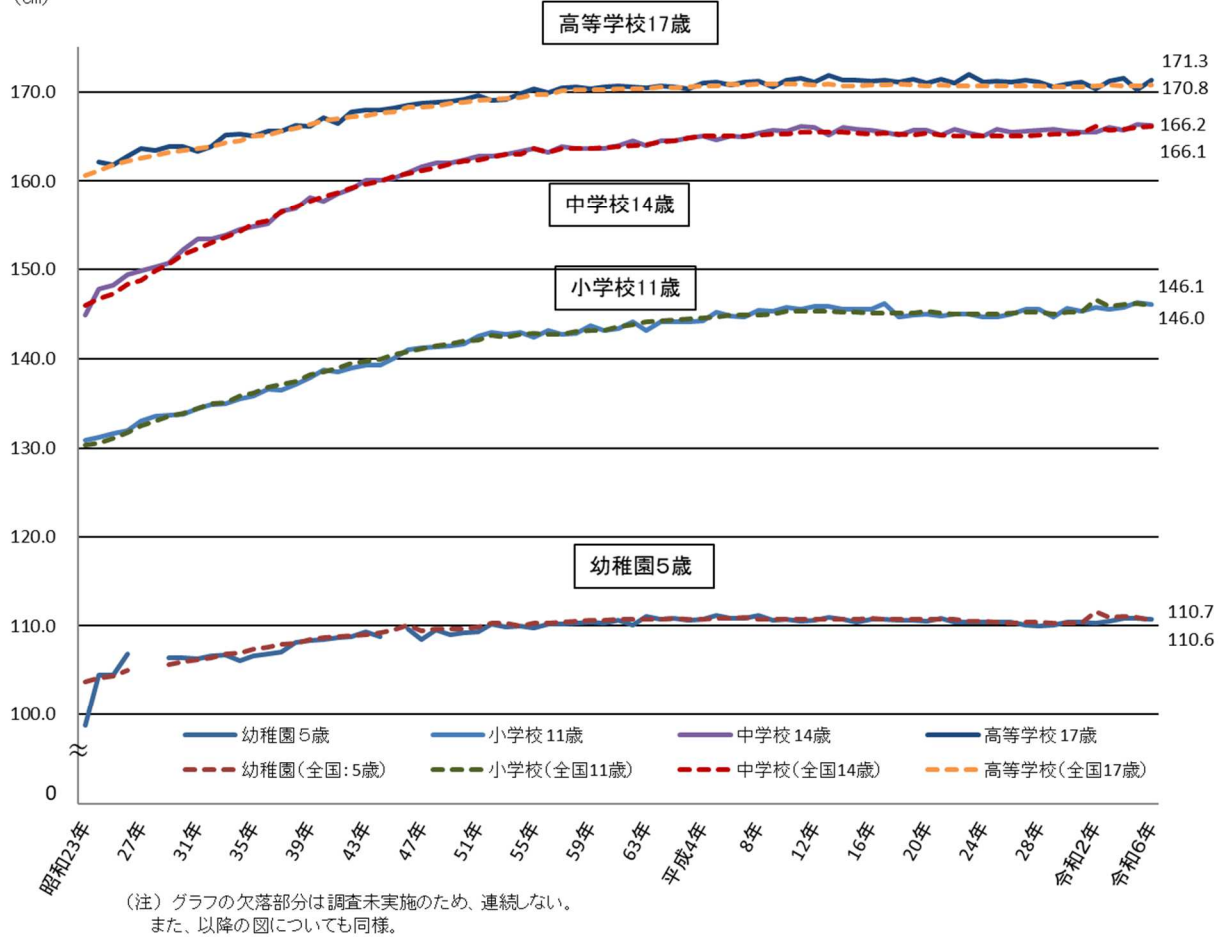


図1-5 女子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

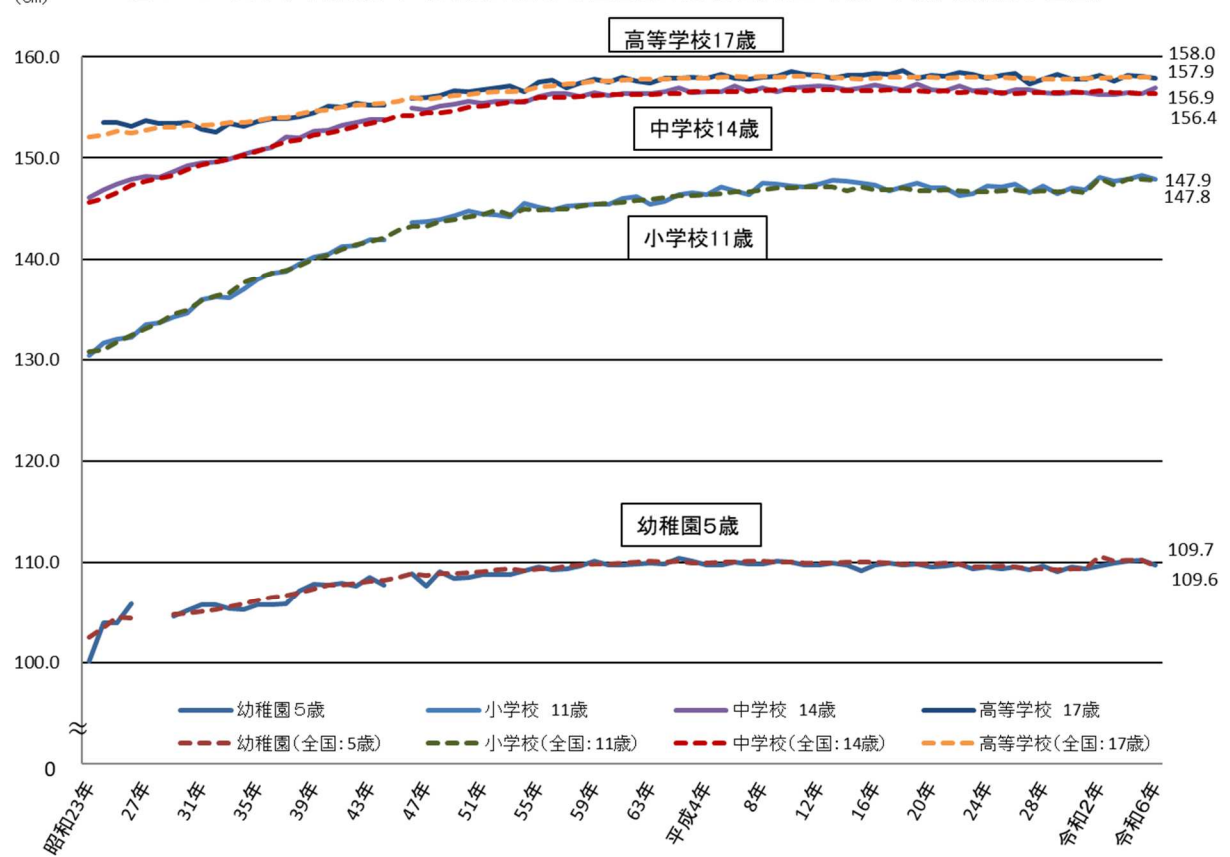


表1-1 男女別、年齢別身長の平均値の比較(鳥取県:令和6年度、令和5年度、平成6年度/全国:令和6年度)

(単位:cm)

区分		令和6年度 (A)	令和5年度 (B)	前年度との差 (A-B)	全国(R6) (C)	全国との差 (A-C)	30年前(親の世代) <平成6年度> (D)	親の世代との差 (A-D)	
男子	幼稚園	5歳	110.7	110.9	-0.2	110.6	0.1	110.9	-0.2
	小学校	6歳	116.4	116.7	-0.3	116.7	-0.3	116.9	-0.5
		7歳	122.8	122.9	-0.1	122.6	0.2	122.2	0.6
		8歳	128.1	128.6	-0.5	128.5	-0.4	128.1	0.0
		9歳	134.2	133.9	0.3	134.0	0.2	133.4	0.8
		10歳	139.8	139.1	0.7	139.7	0.1	138.5	1.3
		11歳	146.1	146.3	-0.2	146.0	0.1	144.8	1.3
	中学校	12歳	153.8	154.0	-0.2	154.0	-0.2	151.5	2.3
		13歳	161.1	160.8	0.3	161.1	0.0	159.7	1.4
		14歳	166.2	166.4	-0.2	166.1	0.1	165.1	1.1
	高等学校	15歳	169.3	168.4	0.9	168.6	0.7	168.2	1.1
		16歳	169.7	170.1	-0.4	169.9	-0.2	170.0	-0.3
		17歳	171.3	170.2	1.1	170.8	0.5	170.8	0.5
女子	幼稚園	5歳	109.7	110.2	-0.5	109.6	0.1	110.0	-0.3
	小学校	6歳	115.7	115.9	-0.2	115.8	-0.1	115.9	-0.2
		7歳	121.3	122.2	-0.9	121.8	-0.5	121.7	-0.4
		8歳	127.7	128.3	-0.6	127.7	0.0	127.9	-0.2
		9歳	133.6	135.0	-1.4	134.1	-0.5	134.1	-0.5
		10歳	140.8	141.2	-0.4	141.1	-0.3	140.4	0.4
		11歳	147.9	148.3	-0.4	147.8	0.1	146.8	1.1
	中学校	12歳	152.2	152.6	-0.4	152.3	-0.1	151.7	0.5
		13歳	155.5	155.0	0.5	155.0	0.5	155.0	0.5
		14歳	156.9	156.4	0.5	156.4	0.5	157.1	-0.2
	高等学校	15歳	157.6	156.9	0.7	157.1	0.5	157.5	0.1
		16歳	157.2	157.5	-0.3	157.7	-0.5	157.9	-0.7
		17歳	157.9	158.1	-0.2	158.0	-0.1	157.9	0.0

(注)30年前(親の世代)は、平成6年度の数値。

(2) 体重

体重の推移は、男子は平成8年度あたりから、女子は平成5年度あたりから横ばい傾向となっているが、男子は9歳及び12歳で過去最高であった。

ア 前年度との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、17歳の62.9kg(前年度より1.6kg増)で、次いで11歳の38.7kg(同0.9kg減)であった。また、9歳及び12歳で過去最高であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、12歳の43.6kg(同1.2kg減)で、次いで15歳の51.6kg(同0.8kg増)、7歳の23.4kg(同0.8kg減)及び9歳の30.3kg(同0.8kg減)であった。

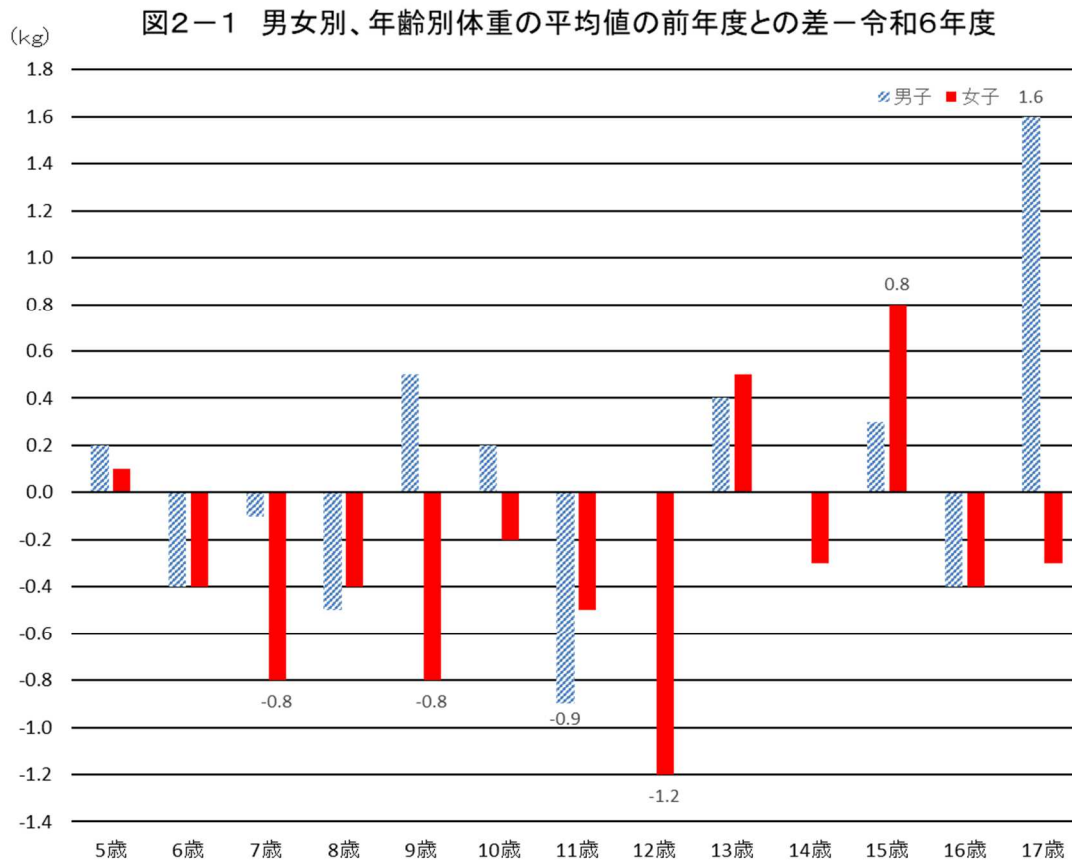
イ 全国との比較

- ・男子をみると、11歳の38.7kgで0.9kg下回り、次いで17歳の62.9kgで0.7kg上回り、10歳の34.5kgで0.7kg下回った。
- ・女子をみると、12歳の43.6kgで0.8kg下回り、次いで13歳の48.2kgで0.7kg上回った。

ウ 30年前(親の世代:平成6年度)との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、12歳の45.1kg(30年前より2.3kg増)で、次いで9歳の31.6kg(同1.6kg増)であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、11歳の40.2kg(同1.2kg増)、次いで16歳の51.9kg(同0.9kg減)であった。

(図2-1~2-5、表1-2 統計表 表1、表3-1~3-2)



(注)男子の12歳及び14歳については、前年度と同水準

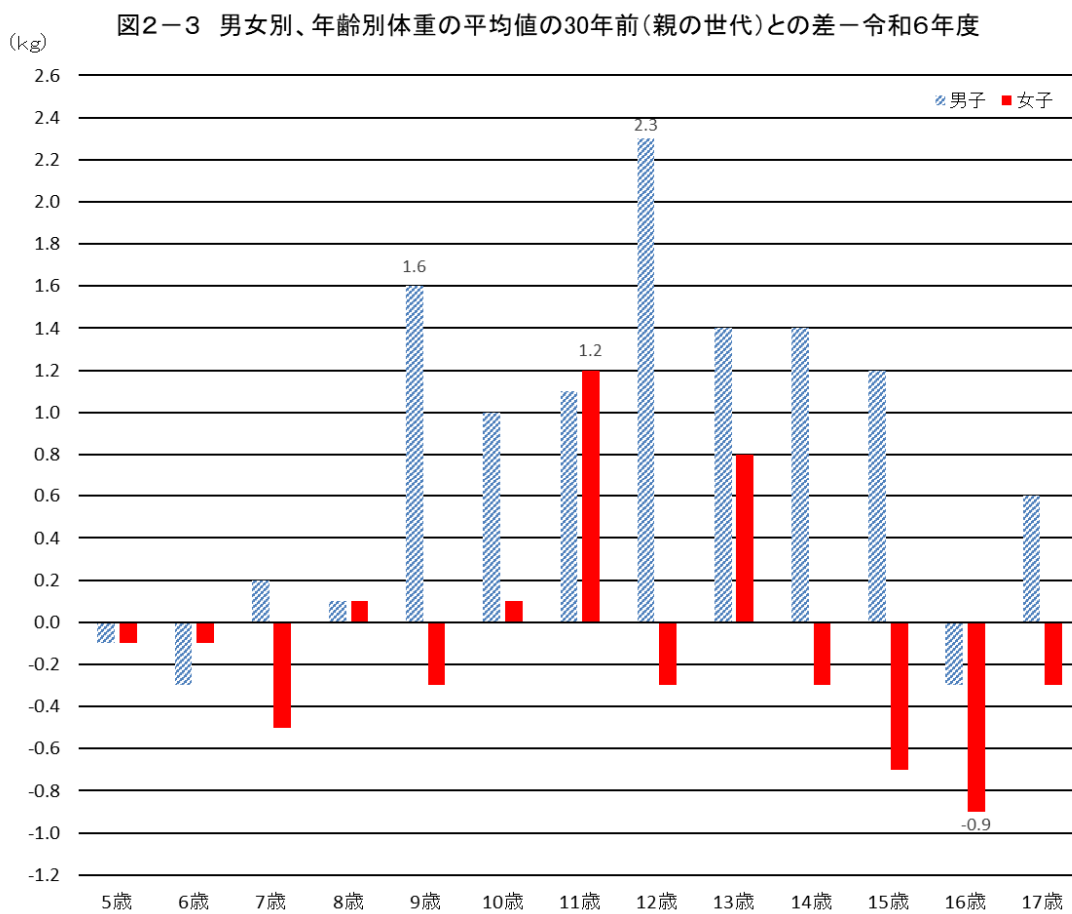
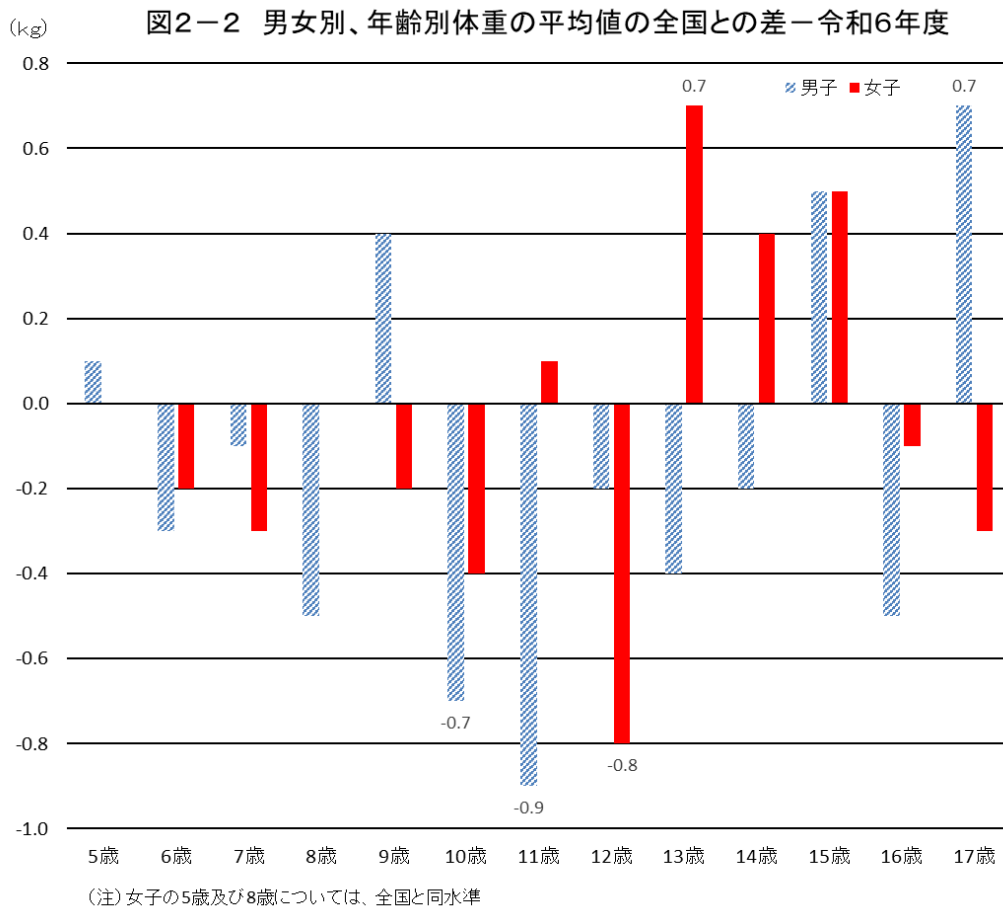


図2-4 男子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

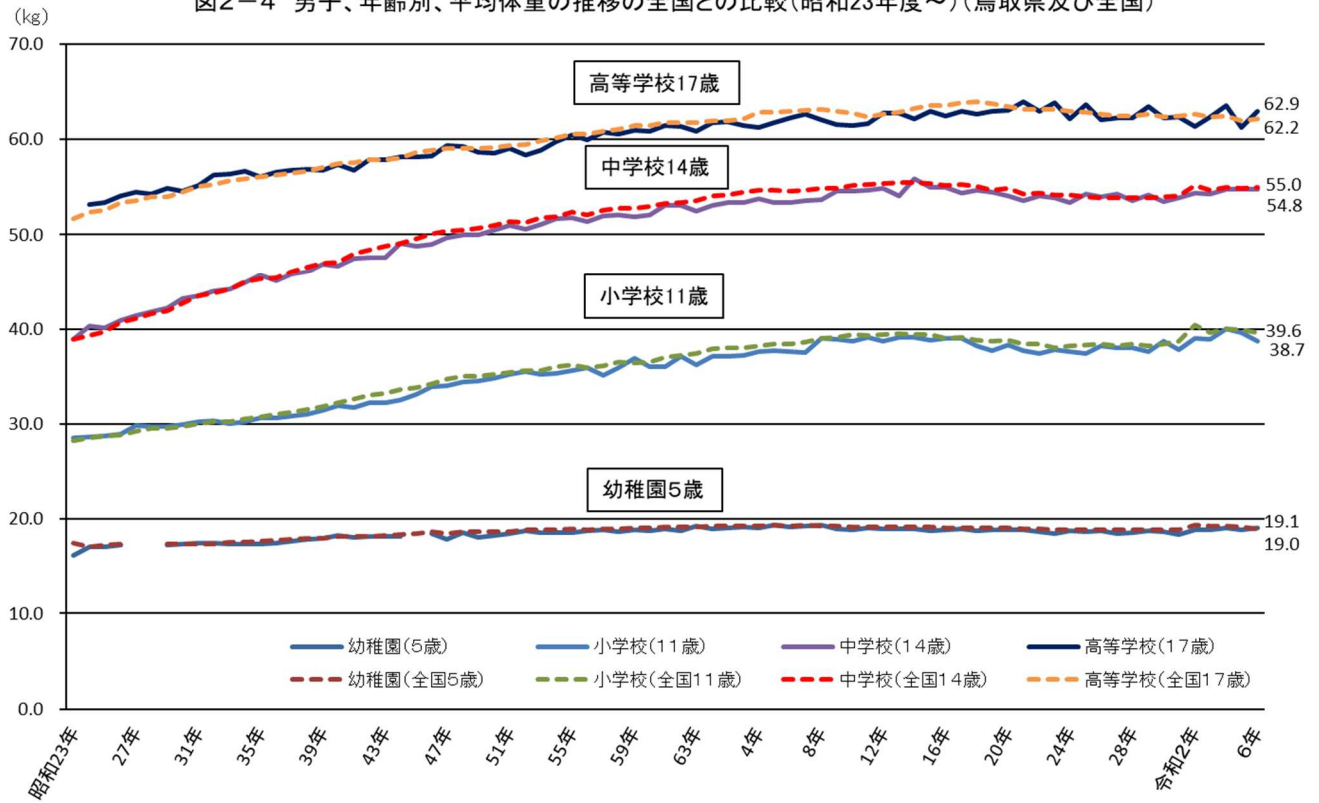


図2-5 女子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

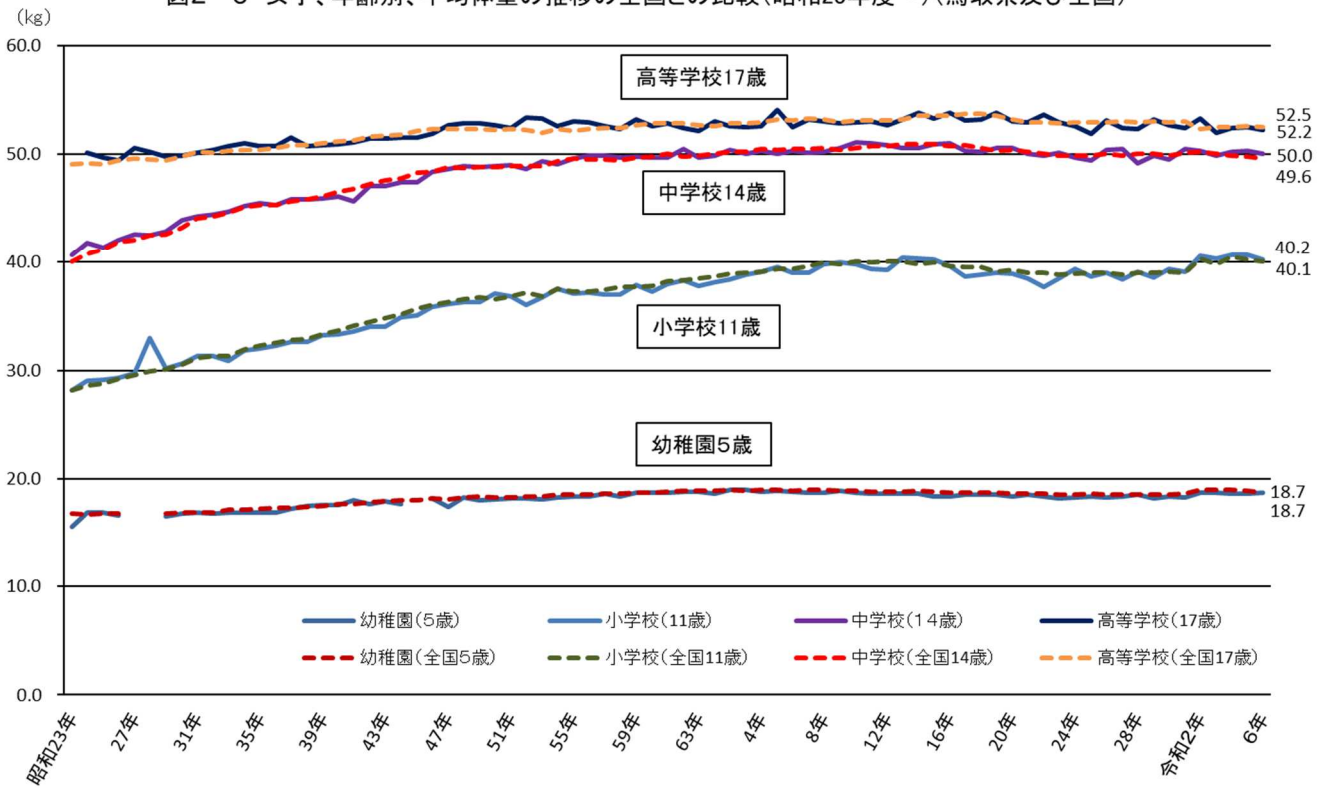


表1-2 男女別、年齢別体重の平均値の比較(鳥取県:令和6年度、令和5年度、平成6年度/全国:令和6年度)

(単位:kg)

区 分		令和6年度 (A)	令和5年度 (B)	前年度との差 (A-B)	全国(R6) (C)	全国との差 (A-C)	30年前(親の世代) <平成6年度> (D)	親の世代との差 (A-D)	
男子	幼稚園	5歳	19.1	18.9	0.2	19.0	0.1	19.2	-0.1
	小学校	6歳	21.1	21.5	-0.4	21.4	-0.3	21.4	-0.3
		7歳	24.1	24.2	-0.1	24.2	-0.1	23.9	0.2
		8歳	27.1	27.6	-0.5	27.6	-0.5	27.0	0.1
		9歳	31.6	31.1	0.5	31.2	0.4	30.0	1.6
		10歳	34.5	34.3	0.2	35.2	-0.7	33.5	1.0
		11歳	38.7	39.6	-0.9	39.6	-0.9	37.6	1.1
	中学校	12歳	45.1	45.1	0.0	45.3	-0.2	42.8	2.3
		13歳	50.1	49.7	0.4	50.5	-0.4	48.7	1.4
		14歳	54.8	54.8	0.0	55.0	-0.2	53.4	1.4
	高等学校	15歳	59.5	59.2	0.3	59.0	0.5	58.3	1.2
		16歳	60.0	60.4	-0.4	60.5	-0.5	60.3	-0.3
		17歳	62.9	61.3	1.6	62.2	0.7	62.3	0.6
女子	幼稚園	5歳	18.7	18.6	0.1	18.7	0.0	18.8	-0.1
	小学校	6歳	20.8	21.2	-0.4	21.0	-0.2	20.9	-0.1
		7歳	23.4	24.2	-0.8	23.7	-0.3	23.9	-0.5
		8歳	26.9	27.3	-0.4	26.9	0.0	26.8	0.1
		9歳	30.3	31.1	-0.8	30.5	-0.2	30.6	-0.3
		10歳	34.6	34.8	-0.2	35.0	-0.4	34.5	0.1
		11歳	40.2	40.7	-0.5	40.1	0.1	39.0	1.2
	中学校	12歳	43.6	44.8	-1.2	44.4	-0.8	43.9	-0.3
		13歳	48.2	47.7	0.5	47.5	0.7	47.4	0.8
		14歳	50.0	50.3	-0.3	49.6	0.4	50.3	-0.3
	高等学校	15歳	51.6	50.8	0.8	51.1	0.5	52.3	-0.7
		16歳	51.9	52.3	-0.4	52.0	-0.1	52.8	-0.9
		17歳	52.2	52.5	-0.3	52.5	-0.3	52.5	-0.3

(注) 30年前(親の世代)は、平成6年度の数値。

(3) 肥満傾向児の出現率

- ・肥満傾向児の出現率は、すべての年齢で全国を下回っており、特に7歳は4.46%で全国(6.28%)を1.82ポイント下回った。
- ・男子の12歳(13.49%)、女子の10歳(8.90%)及び11歳(11.73%)の肥満傾向児の出現率は、過去最多であった。

ア 前年度との比較

- ・前年度と比べると、5歳、9歳、10歳、12歳、14歳及び15歳で増加し、それ以外の年齢で減少した。特に7歳は4.46%で前年度(6.11%)を1.65ポイント下回った。
- ・男女別にみると、男子は、5歳、7歳、10歳及び12～15歳の年齢で増加した。また、12歳(13.49%)で過去最多であった。女子は、9～11歳、14歳及び15歳の年齢で増加した。また、10歳(8.90%)及び11歳(11.73%)で過去最多であった。

イ 全国との比較

- ・すべての年齢で全国を下回っており、特に7歳は4.46%で全国(6.28%)を1.82ポイント下回った。

(図3-1～3-2、表1-3～1-5 統計表 表4-1～4-2)

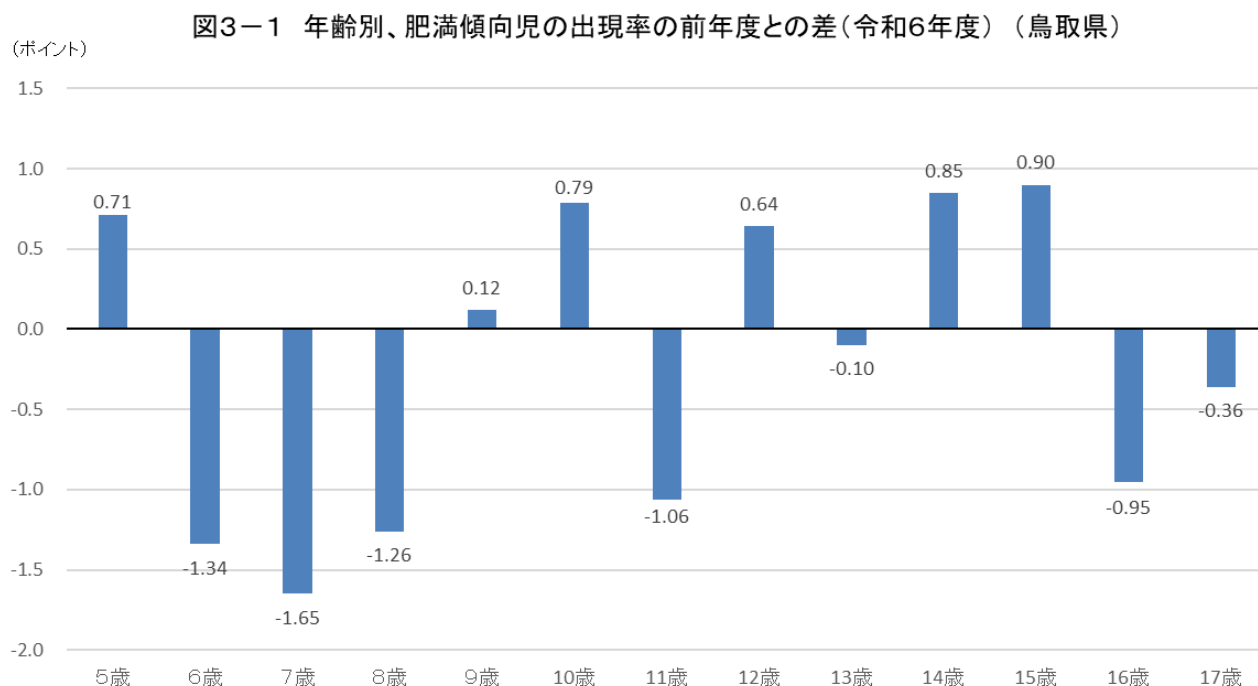


図3-2 年齢別、肥満傾向児の出現率の全国との差(令和6年度)

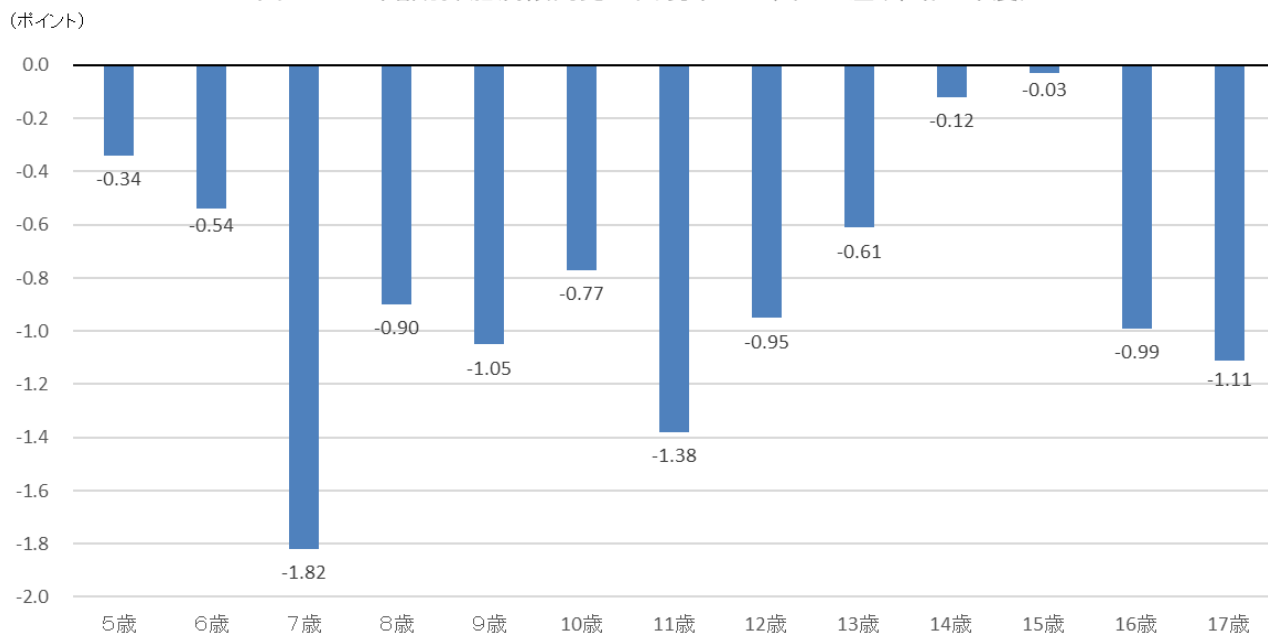


表1-3 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和6年度)(鳥取県:計)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	2.73	4.68	6.53	7.24	9.01	5.81	8.32	10.08	8.78	9.21	11.68	11.59	8.25
19年	1.75	4.87	6.09	6.80	8.86	9.49	7.80	8.58	8.21	8.28	8.48	7.93	11.08
20年	2.63	4.37	4.82	8.64	6.60	7.62	8.72	8.24	8.22	8.61	10.51	8.53	9.62
21年	2.44	3.11	5.76	7.34	7.71	6.98	6.15	9.22	6.68	7.55	9.67	6.03	8.37
22年	1.77	3.35	4.23	6.14	6.39	6.05	6.07	7.78	7.43	6.89	9.23	7.10	9.44
23年	1.12	3.81	4.96	6.59	8.38	8.72	7.68	7.67	8.33	7.83	7.08	7.21	8.03
24年	2.54	3.73	3.15	4.97	7.50	8.00	8.04	7.90	6.34	5.45	8.93	5.84	7.30
25年	2.09	4.38	4.51	7.28	8.07	5.91	7.13	8.96	7.47	7.34	7.07	7.85	7.62
26年	2.31	4.16	5.62	5.68	6.60	7.19	7.95	6.97	8.47	6.85	7.23	7.83	7.07
27年	1.62	3.69	5.29	6.74	7.75	6.81	7.74	8.29	6.81	8.30	9.32	8.18	7.69
28年	2.69	3.39	4.19	5.80	5.98	8.23	6.77	9.23	6.79	5.34	8.87	6.67	6.84
29年	2.03	4.43	5.50	4.28	9.49	6.04	8.16	6.90	7.85	7.56	9.83	8.57	9.67
30年	1.87	3.95	5.34	5.73	8.39	9.41	9.89	8.11	7.64	7.04	9.61	8.74	9.31
令和元年	0.77	4.25	6.83	5.95	9.61	7.54	7.21	7.67	6.91	7.48	8.21	8.61	7.52
2年	2.81	4.99	6.03	8.99	8.30	8.81	9.95	8.87	8.13	9.34	8.49	8.07	7.01
3年	3.41	3.52	5.12	6.82	8.58	7.30	10.03	9.81	8.46	8.86	7.91	9.79	8.63
4年	1.32	5.02	7.13	8.79	10.24	10.58	13.78	10.96	10.60	8.99	9.14	10.66	10.04
5年	1.99	5.07	6.11	9.06	9.05	9.40	11.23	9.58	9.57	8.10	9.31	8.86	8.41
6年	2.70	3.73	4.46	7.80	9.17	10.19	10.17	10.22	9.47	8.95	10.21	7.91	8.05
前年との差 (R6年 -R5年)	0.71	-1.34	-1.65	-1.26	0.12	0.79	-1.06	0.64	-0.10	0.85	0.90	-0.95	-0.36

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表1-4 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和6年度)(鳥取県:男)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	2.18	3.54	7.65	7.43	7.71	7.32	10.28	11.42	9.94	10.39	14.16	13.31	7.68
19年	1.68	4.79	6.38	8.05	9.93	10.61	8.22	8.75	9.24	7.97	8.50	8.79	9.92
20年	3.15	3.77	4.06	8.32	6.54	9.13	10.55	8.43	9.09	8.54	13.94	8.50	12.01
21年	2.29	3.18	6.18	7.11	11.08	7.70	7.89	10.42	6.34	7.28	10.67	7.22	9.56
22年	1.19	3.24	5.24	6.31	6.64	5.38	7.16	7.38	7.83	6.57	10.05	8.59	11.27
23年	0.89	6.25	4.70	6.14	8.84	12.22	9.03	9.35	7.39	8.25	7.62	8.76	10.99
24年	3.22	3.91	2.55	5.49	6.31	7.45	8.42	8.07	6.62	6.02	9.19	5.78	7.09
25年	1.35	4.27	5.43	5.89	9.60	6.38	8.03	9.67	7.58	7.41	6.67	6.77	10.29
26年	2.84	4.04	5.88	4.91	5.99	7.91	8.95	7.97	8.69	6.07	7.06	7.38	6.02
27年	1.20	4.38	5.89	4.74	8.90	7.91	8.44	7.91	6.78	7.80	11.38	10.08	7.35
28年	2.28	2.37	4.44	5.40	6.00	9.09	7.20	9.09	6.23	6.18	8.78	5.55	8.16
29年	2.64	4.86	4.71	4.41	10.77	6.68	8.47	8.21	7.32	7.55	12.62	8.86	12.98
30年	1.28	4.70	4.35	5.76	7.14	10.17	9.56	8.81	9.26	7.04	9.38	11.29	9.35
令和元年	0.32	4.06	7.17	8.00	10.62	9.30	6.60	7.72	6.77	6.75	8.30	7.89	8.85
2年	3.63	5.29	7.44	9.97	10.00	9.95	9.70	10.69	9.76	10.64	9.55	9.24	7.72
3年	3.67	3.79	6.17	6.42	9.04	7.35	10.21	11.08	8.41	9.04	9.87	9.98	10.42
4年	1.74	4.21	7.02	8.45	11.34	14.25	16.18	11.12	11.20	10.15	10.31	15.45	11.98
5年	1.71	4.47	4.54	8.67	11.65	10.26	12.41	11.52	9.35	8.53	11.27	10.51	9.34
6年	3.13	2.76	4.72	7.81	11.00	11.43	8.67	13.49	10.67	10.06	11.84	8.80	9.17
前年との差 (R6年 -R5年)	1.42	-1.71	0.18	-0.86	-0.65	1.17	-3.74	1.97	1.32	1.53	0.57	-1.71	-0.17

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表1-5 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和6年度)(鳥取県:女)

(単位: %、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	3.27	5.82	5.32	7.04	10.38	4.24	6.30	8.76	7.56	7.94	9.12	9.85	8.83
19年	1.81	4.95	5.76	5.44	7.74	8.32	7.36	8.42	7.20	8.62	8.45	7.05	12.27
20年	2.08	4.98	5.61	9.00	6.67	6.04	6.81	8.04	7.37	8.68	6.96	8.56	7.16
21年	2.60	3.04	5.33	7.57	4.07	6.20	4.32	7.98	7.04	7.81	8.70	4.81	7.13
22年	2.35	3.47	3.22	5.96	6.12	6.79	4.90	8.19	7.01	7.22	8.44	5.68	7.56
23年	1.37	1.39	5.24	7.04	7.91	5.04	6.22	5.89	9.31	7.39	6.53	5.75	5.16
24年	1.85	3.53	3.74	4.40	8.68	8.56	7.64	7.72	6.05	4.86	8.67	5.89	7.50
25年	2.83	4.50	3.56	8.66	6.39	5.43	6.21	8.23	7.35	7.25	7.49	8.92	5.00
26年	1.74	4.28	5.34	6.48	7.20	6.40	6.94	5.94	8.23	7.69	7.41	8.28	8.09
27年	2.02	2.94	4.68	8.83	6.57	5.72	6.98	8.67	6.84	8.82	7.11	6.22	8.03
28年	3.13	4.44	3.92	6.21	5.96	7.34	6.35	9.38	7.36	4.49	8.98	7.85	5.46
29年	1.44	3.96	6.32	4.15	8.16	5.38	7.84	5.62	8.43	7.56	6.99	8.27	6.19
30年	2.45	3.21	6.41	5.70	9.75	8.63	10.25	7.40	6.04	7.03	9.83	6.16	9.26
令和元年	1.23	4.44	6.51	3.78	8.58	5.60	7.84	7.62	7.06	8.21	8.11	9.33	6.18
2年	1.94	4.68	4.56	8.05	6.47	7.63	10.22	6.97	6.41	8.03	7.45	6.86	6.31
3年	3.13	3.25	4.03	7.23	8.13	7.25	9.86	8.41	8.51	8.67	5.90	9.61	6.77
4年	0.86	5.88	7.24	9.14	9.11	7.03	11.21	10.79	9.94	7.78	7.89	5.81	8.12
5年	2.26	5.72	7.80	9.45	6.33	8.52	10.08	7.51	9.80	7.63	7.26	7.12	7.45
6年	2.21	4.75	4.18	7.79	7.30	8.90	11.73	7.04	8.19	7.82	8.40	6.97	6.87
前年との差 (R6年 -R5年)	-0.05	-0.97	-3.62	-1.66	0.97	0.38	1.65	-0.47	-1.61	0.19	1.14	-0.15	-0.58

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど肥満傾向が高い。

(4) 痩身傾向児の出現率

- ・ 痩身傾向児の出現率は、6歳、10歳、11歳及び15歳～17歳で全国を上回った。特に16歳は4.22%で全国（3.28%）を0.94ポイント上回った。
- ・ 11歳（4.03%）、14歳（3.21%）、16歳（4.22%）及び17歳（3.58%）の痩身傾向児の出現率は、過去最多であった。

ア 前年度との比較

- ・ 前年度と比べると、6歳、10～12歳、14歳、16歳及び17歳で増加した。また、11歳（4.03%）、14歳（3.21%）、16歳（4.22%）及び17歳（3.58%）で過去最多であった。
- ・ 男女別にみると、男子は10歳～13歳、16歳及び17歳で増加した。また、女子は6歳、7歳、9歳～11歳、14歳、16歳及び17歳で増加した。

イ 全国との比較

- ・ 6歳、10歳、11歳及び15歳～17歳で全国を上回った。特に16歳は4.22%で全国（3.28%）を0.94ポイント上回った。

(図4-1～4-2、表1-6～1-8 統計表 表5-1～5-2)

図4-1 年齢別、痩身傾向児の出現率の前年度との差（令和6年度）（鳥取県）

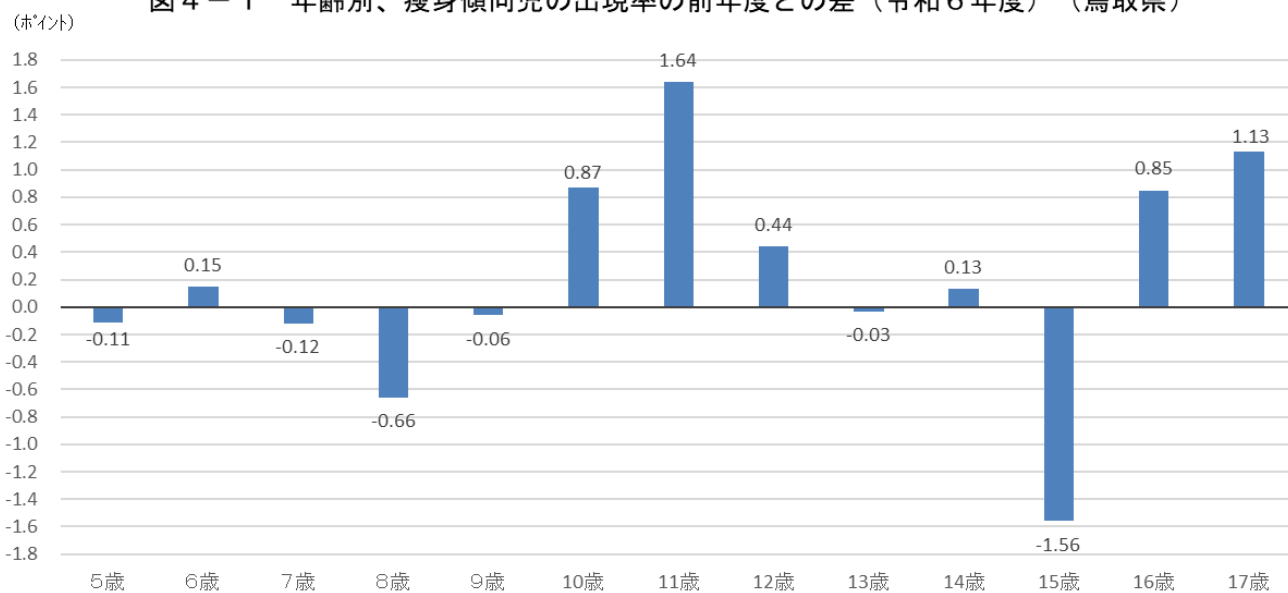


図4-2 年齢別、痩身傾向児の出現率の全国との差（令和6年度）

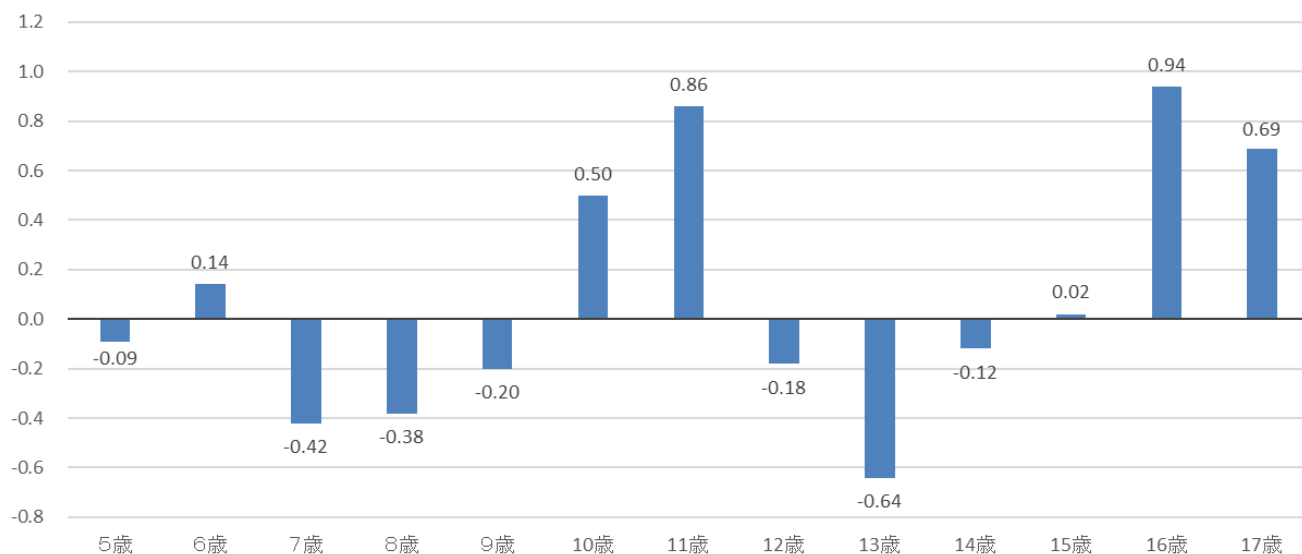


表1-6 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和6年度）（鳥取県：計）

(単位：％、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.14	1.01	0.59	0.90	1.53	3.08	2.26	2.34	1.72	1.70	2.48	1.26	1.88
19年	0.39	0.62	0.67	0.47	1.61	2.22	2.67	3.38	2.39	2.06	4.14	1.81	2.20
20年	0.81	0.63	0.75	0.64	1.82	3.13	2.13	3.89	2.90	2.85	2.98	2.09	1.35
21年	0.12	0.20	0.49	0.32	1.74	2.60	2.98	3.09	2.93	2.80	2.22	2.42	2.55
22年	0.51	0.10	-	0.95	1.71	1.79	3.75	2.40	2.26	2.06	2.41	1.21	1.70
23年	0.39	0.35	0.24	0.78	1.15	1.66	2.90	3.72	2.79	2.31	1.78	0.95	2.18
24年	0.18	0.71	0.83	0.72	2.11	2.25	3.09	2.39	2.49	1.73	1.76	2.46	1.31
25年	0.31	0.59	0.34	0.84	1.59	2.10	2.46	2.71	2.45	1.96	4.12	2.03	2.27
26年	0.53	0.13	0.52	0.75	1.14	2.22	2.98	2.91	2.14	2.26	3.86	1.86	2.38
27年	0.27	0.79	0.76	0.52	2.54	2.70	1.60	2.57	3.04	2.19	3.29	1.96	2.89
28年	0.30	0.26	0.93	1.64	2.06	2.47	3.05	3.64	2.65	3.12	2.18	2.38	1.46
29年	0.53	0.86	0.43	0.84	0.94	2.35	2.39	3.26	2.69	2.01	3.02	1.63	2.68
30年	0.30	0.52	0.72	1.00	0.94	2.60	2.48	3.80	3.41	2.25	2.51	3.12	3.27
令和元年	0.38	0.49	0.78	0.65	1.75	1.64	3.09	3.23	2.70	2.81	2.51	2.76	3.61
2年	0.38	0.21	0.53	0.57	1.39	1.73	2.48	3.31	2.28	2.16	2.62	3.14	2.02
3年	0.35	0.11	0.11	0.60	1.19	3.65	2.28	2.92	2.16	2.64	3.10	3.21	2.33
4年	0.09	0.28	0.39	1.19	1.62	1.87	2.05	2.38	1.98	2.78	3.62	3.51	2.23
5年	0.28	0.48	0.29	1.45	1.97	2.57	2.39	3.39	2.75	3.08	5.25	3.37	2.45
6年	0.17	0.63	0.17	0.79	1.91	3.44	4.03	3.83	2.72	3.21	3.69	4.22	3.58
前年との差 (R6年 -R5年)	-0.11	0.15	-0.12	-0.66	-0.06	0.87	1.64	0.44	-0.03	0.13	-1.56	0.85	1.13

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど痩身傾向が高い。

表1-7 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和6年度）（鳥取県：男）

(単位：％、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.15	0.43	0.24	0.36	2.26	2.03	2.50	1.60	0.87	0.70	3.29	0.39	2.68
19年	0.14	0.37	0.18	0.52	1.27	2.85	3.12	2.82	1.30	2.29	2.90	2.20	1.77
20年	1.57	0.77	0.82	0.38	2.07	3.00	2.56	2.57	1.63	2.44	3.08	1.68	1.21
21年	0.12	-	0.21	0.16	1.02	3.14	4.07	3.18	1.78	2.24	2.47	2.93	3.17
22年	0.32	-	-	0.95	1.30	2.01	3.08	2.07	0.85	1.73	3.08	1.84	1.89
23年	0.57	0.44	-	1.15	1.18	1.82	3.80	2.45	2.15	1.87	1.55	1.82	1.91
24年	0.21	0.48	0.99	0.36	1.59	1.89	3.29	2.47	0.90	2.00	1.94	0.30	1.53
25年	0.62	0.66	0.50	0.90	1.80	1.91	1.73	1.36	1.67	0.91	4.25	2.38	1.36
26年	0.28	-	0.17	1.01	1.19	3.33	2.83	3.10	1.40	1.77	3.34	2.01	1.48
27年	-	0.41	0.80	0.16	3.41	2.36	1.86	2.68	1.74	1.32	3.61	1.80	2.01
28年	0.18	-	1.29	1.60	1.64	1.97	4.26	2.56	1.98	2.84	2.16	3.30	1.46
29年	0.15	1.06	-	0.80	1.07	2.20	2.18	2.88	2.25	1.56	3.48	2.32	2.84
30年	0.22	0.55	0.94	1.65	0.89	3.73	2.70	3.01	2.63	2.61	3.50	3.90	3.97
令和元年	-	0.73	0.75	0.78	1.86	1.65	3.84	2.53	2.12	3.66	2.14	3.85	4.39
2年	0.44	-	0.40	0.32	1.06	2.50	3.47	2.84	1.92	1.78	2.12	3.73	3.04
3年	0.43	-	0.22	0.64	1.44	4.50	2.52	2.42	2.31	3.05	3.31	2.98	3.05
4年	0.17	0.54	0.42	1.03	1.52	2.51	2.50	2.22	2.07	3.56	5.40	3.86	2.13
5年	-	0.24	0.27	1.89	2.29	2.63	2.53	2.46	2.01	3.91	4.79	3.74	3.03
6年	0.32	0.19	-	1.01	1.78	4.25	4.44	3.97	2.75	2.15	4.08	4.03	3.80
前年との差 (R6年 -R5年)	-	-0.05	-	-0.88	-0.51	1.62	1.91	1.51	0.74	-1.76	-0.71	0.29	0.77

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど痩身傾向が高い。

表1-8 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和6年度）（鳥取県：女）

(単位：％、ポイント)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.13	1.59	0.97	1.47	0.76	4.16	2.01	3.07	2.62	2.76	1.64	2.15	1.07
19年	0.63	0.89	1.21	0.42	1.98	1.57	2.20	3.92	3.47	1.82	5.42	1.40	2.64
20年	-	0.50	0.67	0.92	1.56	3.28	1.69	5.25	4.13	3.26	2.87	2.52	1.50
21年	0.12	0.41	0.78	0.49	2.51	2.03	1.84	3.01	4.12	3.35	1.97	1.90	1.92
22年	0.70	0.20	-	0.95	2.15	1.54	4.46	2.75	3.71	2.41	1.75	0.60	1.50
23年	0.20	0.26	0.49	0.41	1.11	1.49	1.93	5.08	3.47	2.78	2.02	0.12	2.45
24年	0.16	0.94	0.67	1.11	2.64	2.60	2.88	2.30	4.18	1.45	1.57	4.58	1.09
25年	-	0.51	0.18	0.79	1.37	2.30	3.22	4.13	3.29	3.08	3.99	1.68	3.18
26年	0.80	0.25	0.88	0.48	1.09	1.00	3.13	2.72	2.91	2.80	4.41	1.70	3.27
27年	0.54	1.20	0.71	0.90	1.65	3.04	1.32	2.46	4.36	3.09	2.95	2.13	3.80
28年	0.43	0.53	0.54	1.67	2.49	2.99	1.86	4.83	3.32	3.40	2.20	1.40	1.47
29年	0.89	0.64	0.88	0.88	0.81	2.51	2.60	3.62	3.17	2.46	2.55	0.94	2.50
30年	0.37	0.49	0.48	0.33	1.00	1.43	2.26	4.61	4.19	1.85	1.51	2.33	2.57
令和元年	0.78	0.24	0.81	0.51	1.64	1.63	2.29	3.96	3.30	1.97	2.89	1.69	2.83
2年	0.32	0.43	0.67	0.80	1.75	0.93	1.38	3.80	2.65	2.55	3.12	2.52	1.01
3年	0.26	0.22	-	0.56	0.95	2.73	2.03	3.47	2.01	2.21	2.88	3.43	1.58
4年	-	-	0.36	1.36	1.72	1.25	1.57	2.56	1.88	1.98	1.71	3.16	2.33
5年	0.56	0.74	0.31	1.00	1.64	2.51	2.25	4.39	3.52	2.17	5.73	2.97	1.86
6年	-	1.09	0.35	0.55	2.04	2.60	3.61	3.69	2.69	4.31	3.24	4.43	3.35
前年との差 (R6年 -R5年)	-	0.35	0.04	-0.45	0.40	0.09	1.36	-0.70	-0.83	2.14	-2.49	1.46	1.49

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど痩身傾向が高い。

2 健康状態（疾病・異常の被患率等状況）

- ・裸眼視力（1.0未満）の者の割合は、小学校、中学校及び高等学校で前年度より減少した。
- ・鼻・副鼻腔疾患を持つ者の割合は、幼稚園以外で全国を上回り、特に小学校で9.50ポイント上回った。
- ・むし歯（う歯）の者の割合は、幼稚園、小学校及び高等学校で過去最少であった。
- ・アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園以外で全国を上回った。
- ・ぜん息の者の割合は、すべての学校区分で全国を上回った。

（1）前年度との比較

ア 裸眼視力（1.0未満）

- ・学校区分別の割合は、小学校が31.5%、中学校が58.6%、高等学校が64.0%となっている。
- ・前年度と比べると、小学校、中学校及び高等学校で減少し、特に高等学校で9.7ポイント減少した。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が0.3%、小学校が21.6%、中学校が18.2%、高等学校が13.0%となっている。
- ・前年度と比べると、中学校及び高等学校で増加し、特に高等学校で2.9ポイント増加した。

ウ むし歯（う歯）

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が20.9%、小学校が39.8%、中学校が30.7%、高等学校が34.2%となっている。
- ・前年度と比べると、中学校以外で減少し、幼稚園、小学校及び高等学校で過去最少であった。

エ アトピー性皮膚炎

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が1.3%、小学校が5.3%、中学校が5.2%、高等学校が4.0%となっている。
- ・前年度と比べると、中学校及び高等学校で増加した。

オ ぜん息

- ・学校区分別の割合は、幼稚園が1.8%、小学校が4.7%、中学校が3.4%、高等学校が1.7%となっている。
- ・前年度と比べると、すべての学校区分で増加した。

（表2-1、図5~9、統計表 表6-1~表12）

※健康状態については、各学校区分の傾向を見るため「平均値」で比較。

表 2 - 1 男女別、学校区別の健康状態平均値の前年度との比較—令和 6 年度（鳥取県）

(単位:%、ポイント)

区 分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	令和5年	14.7	35.3	62.7	73.7	x	33.2	57.7	69.6	18.4	37.4	68.1	77.9
	令和6年	x	31.5	58.6	64.0	x	28.8	54.5	62.5	x	34.3	62.8	65.6
	差	-	-3.8	-4.1	-9.7	-	-4.4	-3.2	-7.1	-	-3.1	-5.3	-12.3
鼻・副鼻 腔疾患	令和5年	0.4	21.9	17.8	10.1	0.6	27.1	20.9	12.8	0.2	16.6	14.5	7.2
	令和6年	0.3	21.6	18.2	13.0	0.4	26.1	21.0	16.8	0.2	16.8	15.4	8.9
	差	-0.1	-0.3	0.4	2.9	-0.2	-1.0	0.1	4.0	-	0.2	0.9	1.7
むし歯 (う歯)	令和5年	22.2	40.1	29.6	34.3	22.4	41.7	28.4	32.1	21.9	38.5	30.9	36.5
	令和6年	20.9	39.8	30.7	34.2	23.7	41.5	29.5	32.7	17.7	38.0	32.0	35.8
	差	-1.3	-0.3	1.1	-0.1	1.3	-0.2	1.1	0.6	-4.2	-0.5	1.1	-0.7
アトピー 性皮膚炎	令和5年	1.7	5.4	4.9	3.8	1.9	5.7	5.5	4.3	1.5	5.2	4.2	3.4
	令和6年	1.3	5.3	5.2	4.0	1.3	5.4	5.8	4.0	1.4	5.2	4.7	4.0
	差	-0.4	-0.1	0.3	0.2	-0.6	-0.3	0.3	-0.3	-0.1	0.0	0.5	0.6
ぜん息	令和5年	1.6	4.0	2.9	1.6	2.3	5.0	3.2	1.9	0.9	3.0	2.4	1.3
	令和6年	1.8	4.7	3.4	1.7	1.9	5.7	4.0	1.9	1.6	3.6	2.9	1.6
	差	0.2	0.7	0.5	0.1	-0.4	0.7	0.8	0.0	0.7	0.6	0.5	0.3

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当数値なし。

むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(2) 全国との比較

ア 裸眼視力 (1.0 未満)

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、小学校、中学校及び高等学校で下回った。特に高等学校で7.06ポイント下回った。
- ・男女別にみると、男女ともに小学校、中学校及び高等学校で下回った。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、幼稚園以外で上回り、特に小学校で9.50ポイント上回った。
- ・男女別にみると、男女ともに幼稚園以外で上回った。

ウ むし歯 (う歯)

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、幼稚園、小学校及び中学校で上回った。特に小学校で6.91ポイント上回った。
- ・男女別にみると、男子は高等学校以外で上回り、女子は小学校及び中学校で上回った。

エ アトピー性皮膚炎

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、幼稚園以外で上回った。
- ・男女別にみると、男女ともに幼稚園以外で上回った。

オ ぜん息

- ・学校区分別の割合を全国と比べると、すべての学校区分で上回った。特に小学校で1.83ポイント上回った。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校区分で上回った。

(表2-2、図5~9、統計表 表6-1~表12)

表2-2 男女別、学校区分別の健康状態平均値の全国との比較—令和6年度

(単位:%,ポイント)

区 分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	鳥取県	x	31.50	58.60	64.00	x	28.80	54.50	62.50	x	34.30	62.80	65.60
	全 国	26.53	36.84	60.61	71.06	25.90	34.82	57.25	69.96	27.18	38.94	64.12	72.30
	差	-	-5.34	-2.01	-7.06	-	-6.02	-2.75	-7.46	-	-4.64	-1.32	-6.70
鼻・副鼻 腔疾患	鳥取県	0.30	21.60	18.20	13.00	0.40	26.10	21.00	16.80	0.20	16.80	15.40	8.90
	全 国	2.74	12.10	10.55	7.91	3.24	14.73	12.29	8.99	2.22	9.35	8.73	6.80
	差	-2.44	9.50	7.65	5.09	-2.84	11.37	8.71	7.81	-2.02	7.45	6.67	2.10
むし歯 (う歯)	鳥取県	20.90	39.80	30.70	34.20	23.70	41.50	29.50	32.70	17.70	38.00	32.00	35.80
	全 国	20.74	32.89	26.50	34.70	21.48	34.12	24.97	33.04	19.97	31.61	28.10	36.43
	差	0.16	6.91	4.20	-0.50	2.22	7.38	4.53	-0.34	-2.27	6.39	3.90	-0.63
アトピー 性皮膚炎	鳥取県	1.30	5.30	5.20	4.00	1.30	5.40	5.80	4.00	1.40	5.20	4.70	4.00
	全 国	1.61	3.24	2.98	2.60	1.77	3.42	3.08	2.78	1.45	3.05	2.88	2.42
	差	-0.31	2.06	2.22	1.40	-0.47	1.98	2.72	1.22	-0.05	2.15	1.82	1.58
ぜん息	鳥取県	1.80	4.70	3.40	1.70	1.90	5.70	4.00	1.90	1.60	3.60	2.90	1.60
	全 国	1.20	2.87	1.89	1.42	1.44	3.38	2.23	1.57	0.96	2.34	1.53	1.26
	差	0.60	1.83	1.51	0.28	0.46	2.32	1.77	0.33	0.64	1.26	1.37	0.34

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。
「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当数値なし。
むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(3) 30年前(親の世代:平成6年度)との比較

ア 裸眼視力(1.0未満)

- ・学校区分別の割合を比べると、小学校、中学校及び高等学校で増加した。
- ・男女別にみると、男女ともに小学校、中学校及び高等学校で増加した。

イ むし歯(う歯)

- ・学校区分別の割合を比べると、すべての学校区分で大幅に減少した。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校区分で大幅に減少した。

ウ ぜん息

- ・学校区分別の割合を比べると、小学校、中学校及び高等学校で増加した。
- ・男女別にみると、男女ともに小学校、中学校及び高等学校で増加した。

(表2-3、図5~9、統計表 表6-1~表12)

表2-3 男女別、学校区分別の健康状態の30年前(親の世代)との比較-令和6年度(鳥取県)

(単位:%、ポイント)

区 分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	30年前	21.9	25.8	50.6	62.7	18.8	22.6	47.0	60.1	24.9	29.1	54.3	65.3
	令和6年	x	31.5	58.6	64.0	x	28.8	54.5	62.5	x	34.3	62.8	65.6
	差	-	5.7	8.1	1.3	-	6.2	7.5	2.4	-	5.2	8.5	0.3
むし歯 (う歯)	30年前	85.4	92.2	92.5	93.9	84.3	92.2	90.9	92.9	86.5	92.2	94.1	95.0
	令和6年	20.9	39.8	30.7	34.2	23.7	41.5	29.5	32.7	17.7	38.0	32.0	35.8
	差	-64.5	-52.4	-61.8	-59.7	-60.6	-50.7	-61.4	-60.2	-68.8	-54.2	-62.1	-59.2
ぜん息	30年前	...	3.3	2.1	1.1	...	3.9	2.4	1.0	...	2.6	1.9	1.2
	令和6年	1.8	4.7	3.4	1.7	1.9	5.7	4.0	1.9	1.6	3.6	2.9	1.6
	差	-	1.5	1.3	0.6	-	1.8	1.6	0.9	-	1.0	1.0	0.4

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。

「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当数値なし。

「...」は計数出現があり得ない場合または調査対象とならなかった場合。

むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

図5 裸眼視力(1.0未満)の者の割合の推移(昭和23年度~)(鳥取県)

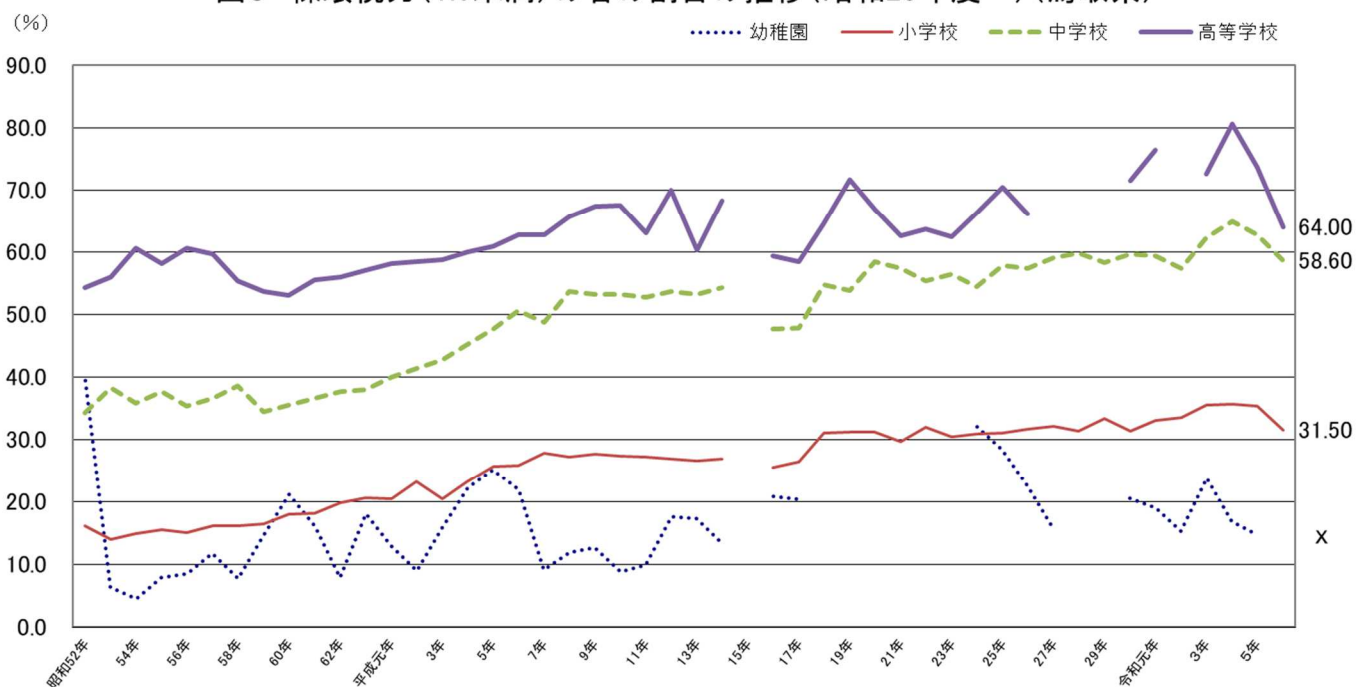


図6 鼻・副鼻腔疾患を持つ者の割合の推移(平成19年度～)(鳥取県)

(%)

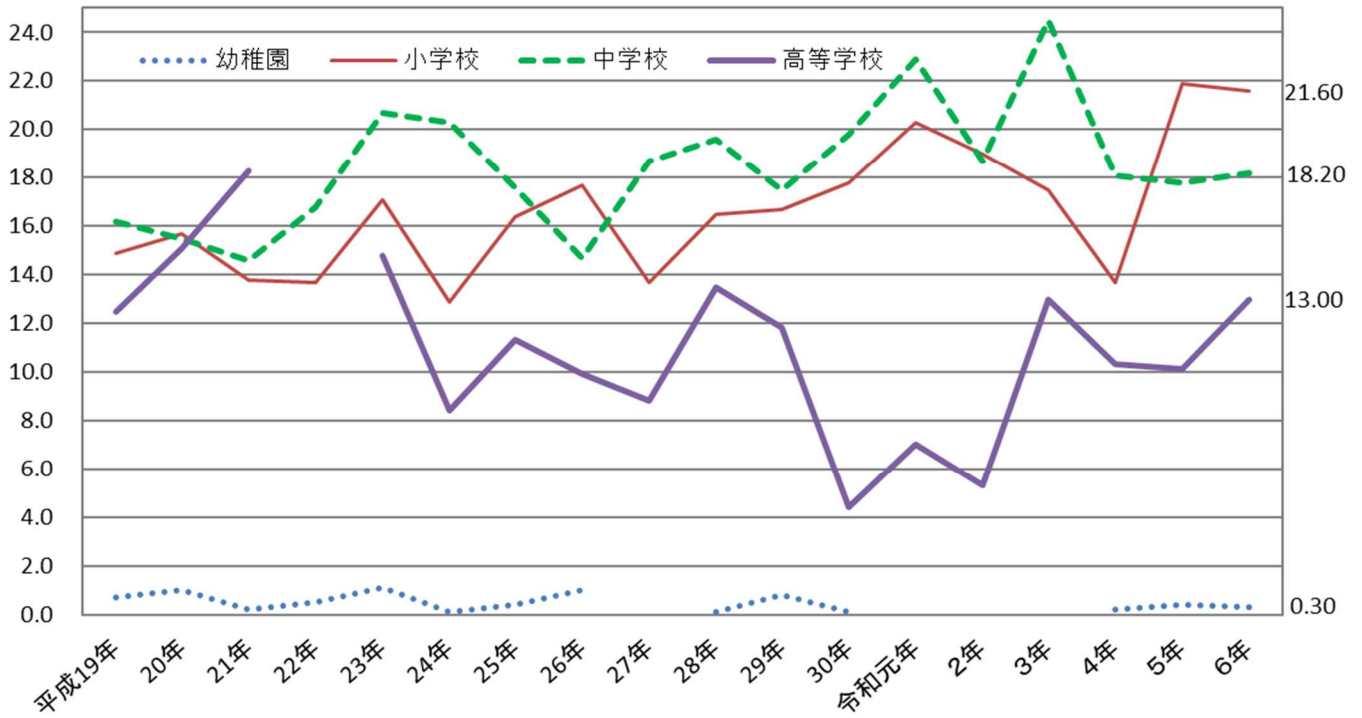


図7 むし歯(う歯)の者の割合の推移(昭和52年度～)(鳥取県)

(%)

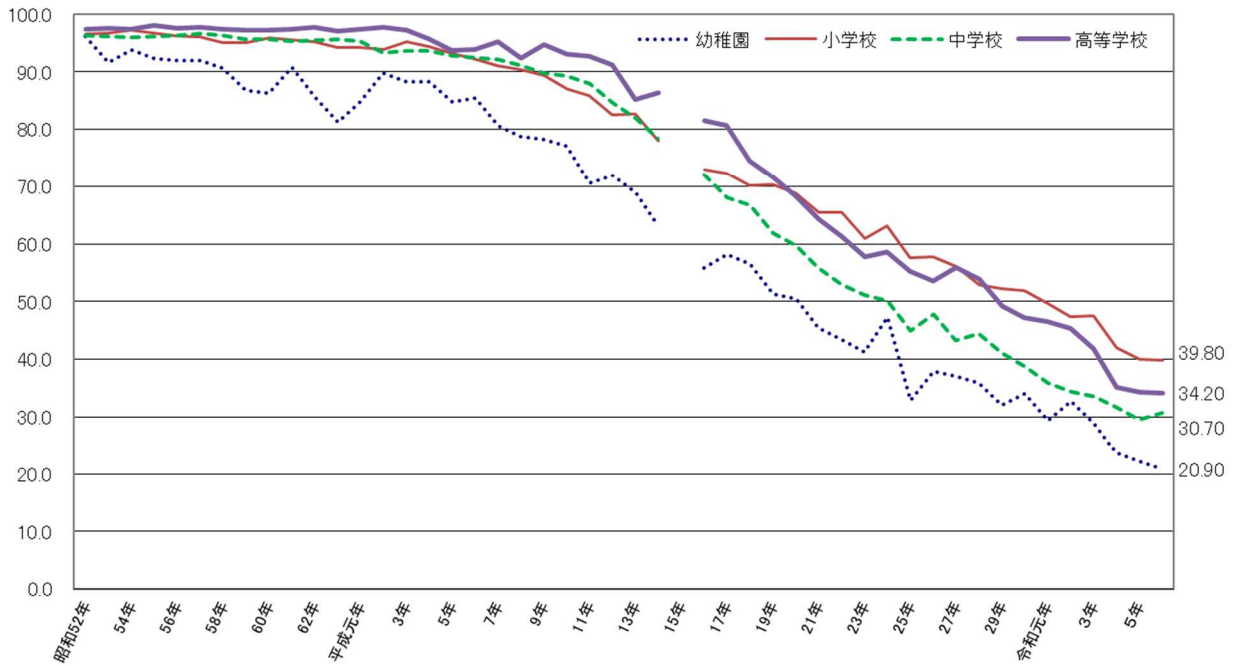


図8 アトピー性皮膚炎の者の割合の推移(平成18年度～)(鳥取県)

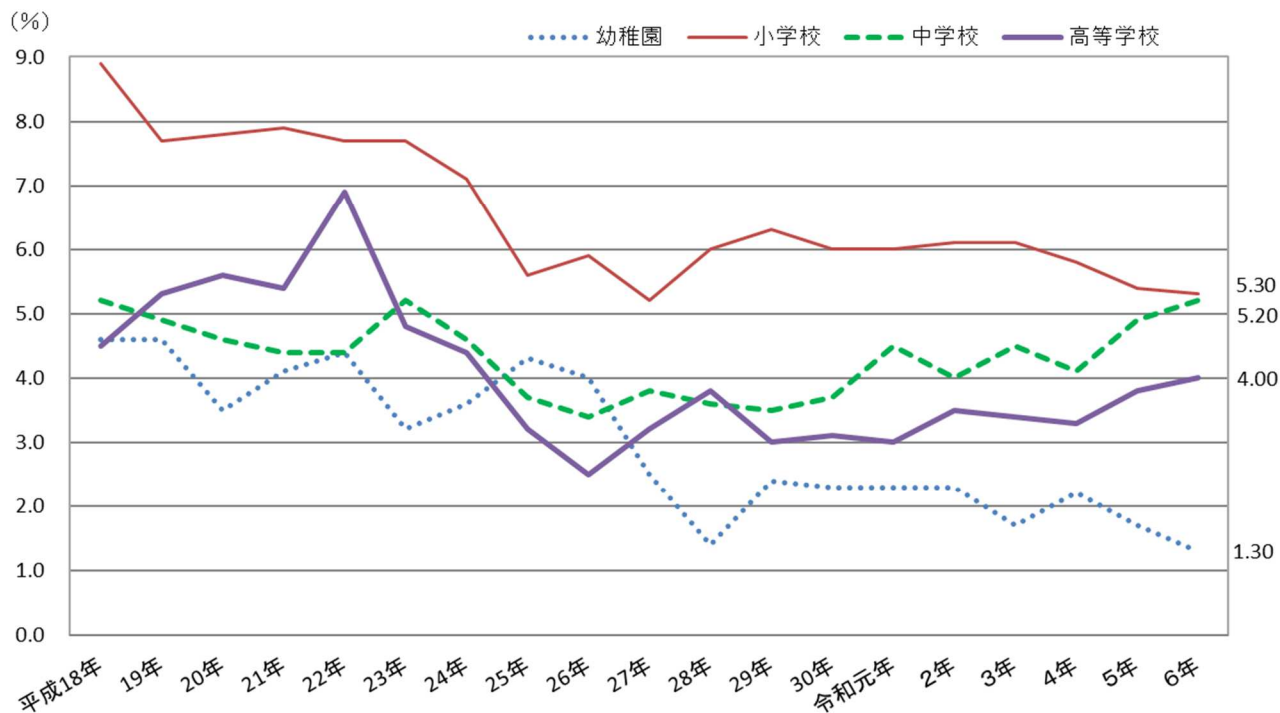
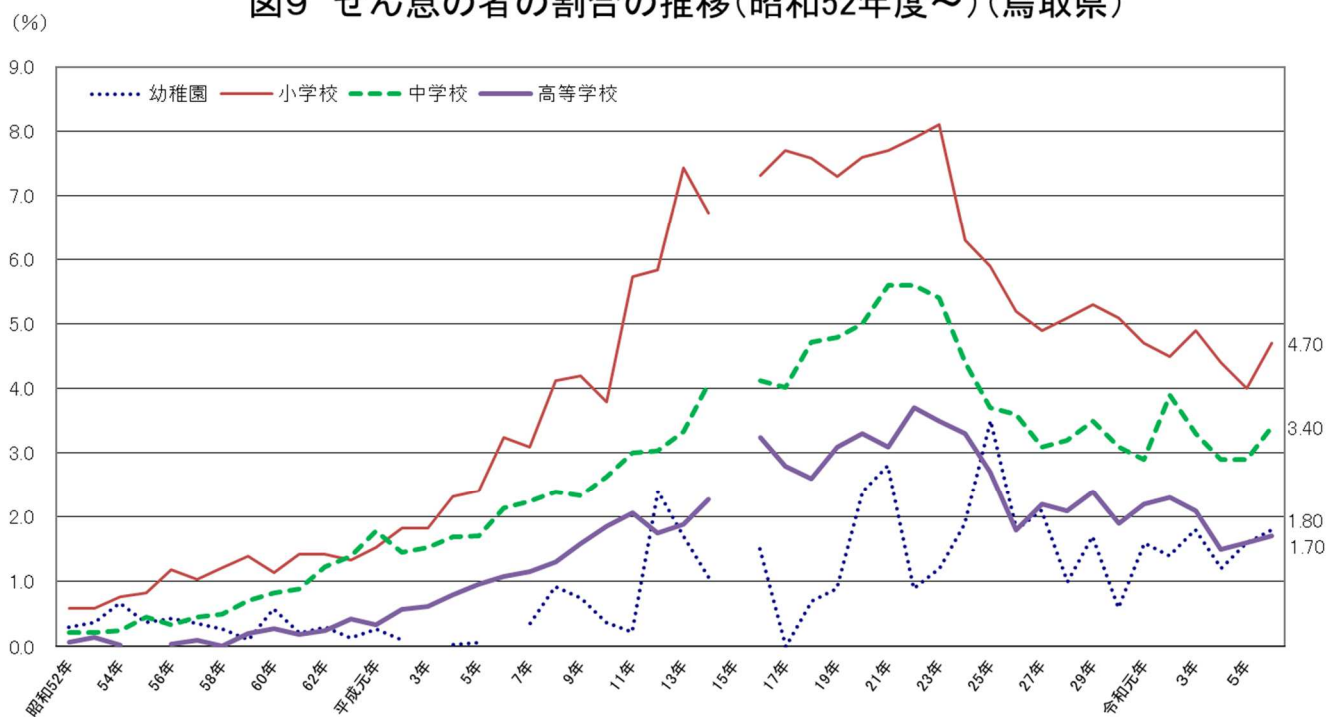


図9 ぜん息の者の割合の推移(昭和52年度～)(鳥取県)



3 相談員配置状況

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、中学校が33.6%、高等学校が17.2%で、全国と比べてそれぞれ6.5ポイント、7.4ポイント上回った。

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、前年度と比べて小学校が6.0%で1.8ポイント、高等学校が17.2%で7.8ポイント上回り、中学校が33.6%で8.9ポイント下回った。

また、全国と比べると中学校が6.5ポイント、高等学校が7.4ポイント上回った。

(表3、図10-1~10-3 統計表 表13)

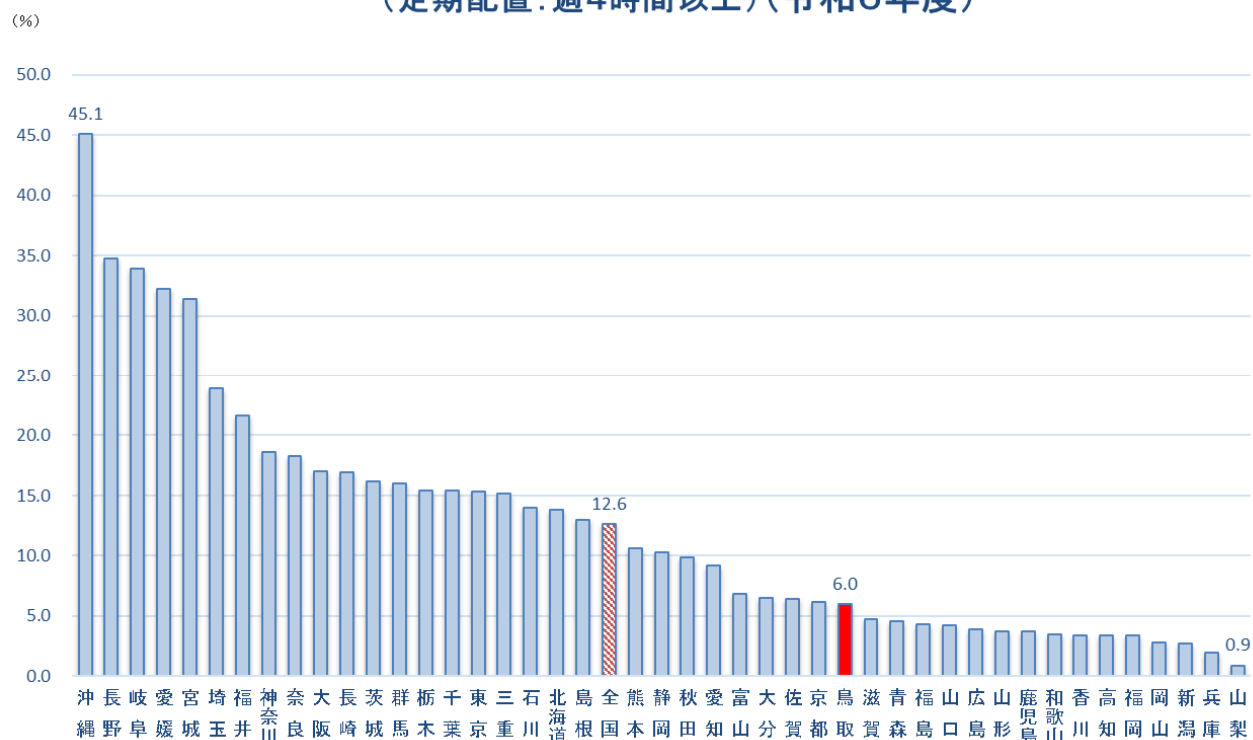
表3 相談員配置状況(令和6年度)(鳥取県及び全国)

(単位: %)

区 分		有				無
		定期配置		不定期配置		
		週4時間以上	週4時間未満			
小学校	鳥取	6.0 (4.2)	3.0 (1.4)	13.7 (1.8)	77.3 (92.7)	
	全国	12.6 (11.2)	5.8 (5.0)	14.5 (12.4)	67.1 (71.5)	
中学校	鳥取	33.6 (42.5)	- (2.8)	1.6 (3.2)	64.7 (51.5)	
	全国	27.1 (26.0)	3.3 (2.8)	6.9 (7.7)	62.7 (63.5)	
高等学校	鳥取	17.2 (9.4)	- (3.1)	- (-)	82.8 (87.5)	
	全国	9.8 (7.1)	2.5 (1.9)	5.9 (6.1)	81.9 (84.8)	

※ () 内は前年度数値

図10-1 都道府県別小学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和6年度)



注) 岩手県、徳島県、宮崎県については、数値なし

4 スクールカウンセラー配置状況

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、高等学校が67.2%で、全国と比べ23.3ポイント上回った。

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、前年度と比べて小学校が4.8%で8.7ポイント、中学校が39.9%で21.2ポイント、高等学校が67.2%で15.6ポイント下回った。また、全国と比べると高等学校が23.3ポイント上回った。

(表4、図11-1～11-3 統計表 表14)

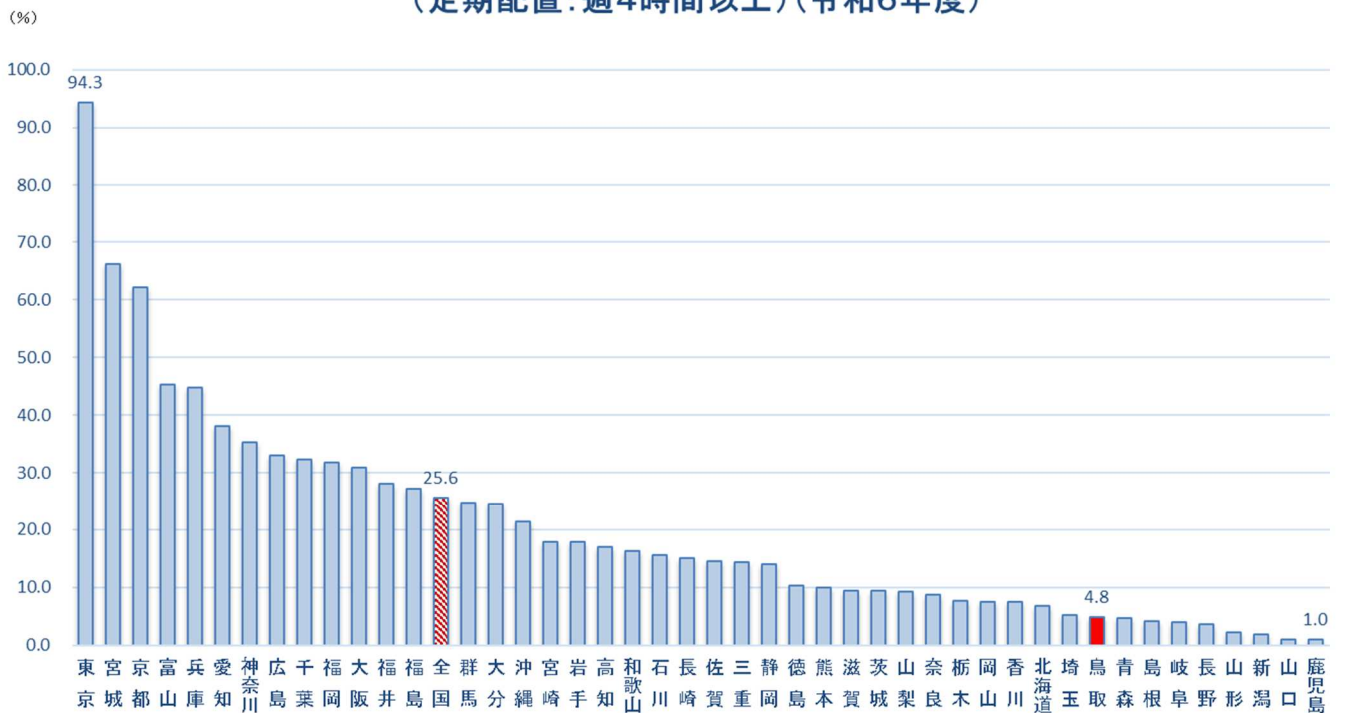
表4 スクールカウンセラー配置状況（令和6年度）（鳥取県及び全国）

(単位：%)

区 分		有				無
		定期配置		不定期配置		
		週4時間以上	週4時間未満			
小学校	鳥取	4.8 (13.5)	68.4 (66.7)	20.8 (12.3)	6.0 (7.6)	
	全国	25.6 (24.6)	42.5 (38.1)	26.7 (30.3)	5.2 (7.0)	
中学校	鳥取	39.9 (61.1)	55.8 (37.3)	4.4 (1.6)	- (-)	
	全国	66.5 (66.1)	21.8 (21.7)	9.9 (10.0)	1.7 (2.2)	
高等学校	鳥取	67.2 (82.8)	25.0 (14.1)	- (-)	7.8 (3.1)	
	全国	43.9 (45.1)	33.4 (31.7)	17.5 (18.2)	5.3 (5.0)	

※ () 内は前年度数値

図11-1 都道府県別 小学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置：週4時間以上)(令和6年度)



注) 秋田県、愛媛県については、数値なし

図11-2 都道府県別 中学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和6年度)

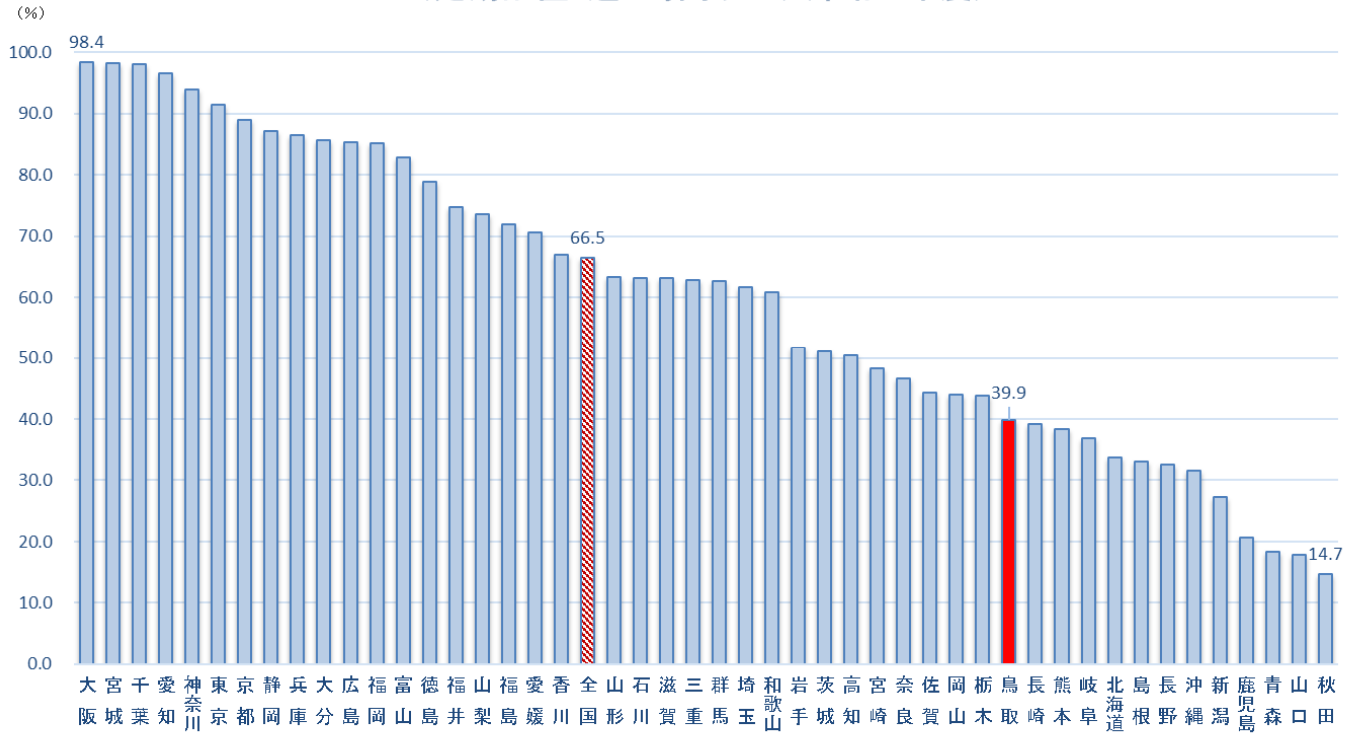


図11-3 都道府県別 高等学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和6年度)

